まみちゃんのまんまんちゃん

山陰教区少年連盟理事長
江津組光善寺　波北　顕

まみちゃんは毎朝学校に行く時、仏さまに「まんまんちゃん行ってきまーす」と挨拶して出かけています。ある日まみちゃんはお母さんに聞いてみました。

「まんまんちゃんって、誰のこと?」

「まんまんちゃんというのは、阿弥陀さまのことよ」

「じゃあ私は毎朝阿弥陀さまの名前を呼んでいるんだね。そういえばお母さんはいつもまみちゃん行ってらっしゃーいって私の名前を呼んでくれるよね」

「そうだよ、お母さんはね、あなたの名前を呼ぶのが大好きなの。だって、あなたが私のお腹の中に生まれたときからずっと呼びかけてくれていたんだから」

「私が?」

「そうよ。『私はここにいるよ。私の名前を呼んでね』ってずっとずっと言ってくれてたのよ。だからまみちゃんって呼ぶのが大好きなの」

「じゃあ、阿弥陀さまも『私はここにいるよ。私の名前を呼んで下さい』と言ってくれているから、まんまんちゃんって言えるんだね。」

「そうだね。阿弥陀さまの願いが私たちに届いているんだよね。」

「そうなんだ…」

それからというもの、毎朝「まんまんちゃん、行ってきます」と言うたびに、何か心が温かくなるのを感じるまみちゃんでした。

※この法話は、理事長が季刊「プトラ」に書かれたものを再掲しています。

指導者研修会を終えて

会所住職　佐波組浄土寺
西原真公

平成二十五年八月二十三日に山陰教区少年連盟の指導者研修会と併せて佐波組仏の子のつどいを開催しました。今回で十四回目となる組の子どものつどいですが、だんだんマンネリ化になりつつあり、何か新しい刺激をと思っていたところに、今回のお話しを頂きました。

山陰教区の研修会と一緒にさせて頂くことは、我々、佐波組スタッフにも新鮮な刺激を与えて下さいました。

今回の研修会にあたり、私からも少し希望をお伝えしました。それは、今までいろいろなゲームをしていましたが、本格的?な室内オリンピック（対抗ゲームのようなもの）はしたことがありませんでした。子どもの参加も少なかったこともありますが、三～四の班を作ってみんなで盛り上がれば良いなという淡い想いがありました。そこで、室内オリンピックをするならば徹底的にこだわろうと考え、開会式から閉会式まですべてオリンピック風にお願いしました。

選手入場から始まり、聖火リレー、会長あいさつなど、今までの開会式とはひと味違う雰囲気となりました。初めての試みで多少課題は残りましたが、楽しい開会式となり、特にスペシャルゲストをお招きしたので、子ども達にも強烈な思い出を残したことでしょう!

それぞれの競技（ゲーム）も趣向を凝らして頂き、『次、どんなことをするのだろう?』と興味を沸き立たせる演出をして下さいました。子ども達の笑顔を見ていると、ついついこちらも楽しくなります。

ただ、少し心残りは、参加人数が思ったほど集まらなかったことでした。小学校とも日程を調整し、ずいぶん前から募集はしていましたが、八月の後半になると、それぞれの地区でも子どもの行事が行われ、重なってしまいます。どこの子ども会でも当てはまることですが、最大の課題が日程調整だと改めて知らされました。ここを克服するためには、地域とのつながりやコミュニケーションしかありません。地道なことですが一番大切なことでもあり、それが子ども達との繋がりとなって、子どもの笑い声が聞こえるお寺となる第一歩だと信じております。

最後になりましたが、この度の研修会に関わって頂いたスタッフや参加者、全ての方々に、厚くお礼申し上げます。有り難うございました。

※室内オリンピックの内容については二・三頁に掲載しています。

室内オリンピック①
～開会式について～

室内オリンピックということで、今回の開会式は通常の開会式の流れではなく、オリンピックの開会セレモニーをイメージし行いました。

子ども達には縁にて班ごとに並んでもらい、誘導係以外のスタッフは外陣に並んでいただきました。開会のファンファーレを鳴らした後にあまちゃんのテーマ曲とともに向拝より子ども達が班ごとに一列に並んで入場行進し、外陣を一周した後中央で整列しました。子ども達に続いてスタッフも同じように外陣を行進していただきました。中央を通る時に班とスタッフの紹介をアナウンスしました。

全員の行進が終わった後、照明を落とし聖火の入場。本物の火を扱うのでスタッフにお願いし、向拝から内陣に待機する会所住職のもとに蝋燭を渡していただきました。

受け取った火を内陣の蝋燭へ分灯。その時にはオルゴールのＢＧＭを鳴らし、昨年度の教区指導者研修会で、キャンドルサービスを行った時の事を参考にリーダーの言葉を読みました。

場の雰囲気が落ち着いたところでＢＧＭを止めて、経本を配り、お勤め・三つのやくそく・所長挨拶、そして法話を聞かせていただいて開会セレモニーを終了しました。

開会セレモニーをするにあたって、子どもたちにどのように行進してもらうか、各場面にどのような音楽をあわせるか、スタッフの紹介をどのように行うか、お勤めに向けて雰囲気をどのように落ち着かせるのかなどは本堂で実際に動いて打合せをしました。

子ども達は受付を済ませて班にならんで開会セレモニーを待っていたので、その前に班での時間がもう少しあれば入場行進などにぎやかに出来たのかもしれませんし、さらにこの班でその日一日室内オリンピックをするという団結力が開会から出来たのかもしれません。改善点もありますが、何より初めて開会式を演出するということが出来て、お寺での色んな形の行事が行えるということを再確認させていただきました。

室内オリンピック②　～対抗で行うゲーム～（75分プログラム）

設定人数：20～30人

	ゲーム名	時間隊形	準備物	ゲームの説明
1	背中あわせリレー	6分	なし	2人一組で背中合わせになって走ってリレーをする。
2	コロコロリレー	7分	ペットボトル 割箸（1本）	立っているペットボトルを倒し、転がしてポイントを回って帰ってきたら再びペットボトルを立てる。ペットボトルの操作はすべて割箸を使って行ない、割箸をバトン代わりにリレーをする。
3	むすんで ほどいて	10分	なし	人間知恵の輪。チームの代表者が、他のチームの人が手をつないで作った輪（もつれあわせてある）をほどいていく。早くきれいな一つの輪に戻した代表者のチームの勝ち。
4	川渡り	7分	新聞紙	2人一組で、一人が新聞紙2枚を移動させてもう一人がその新聞を飛び石のようにしていく。リレー形式で競う。
5	中間発表	4分 なし	なし	得点の中間発表をする。
6	関所やぶり	7分	なし	自分のチームの前にいる他のチームの代表者と一人ずつ出てジャンケンをする。勝てば戻って次の人と交代して、負けたらポイントを回ってきてもう一度ジャンケンをする。リレー形式で競う。
7	子ふやしリレー	7分	なし	一番目の人が走ってポイントを回って帰ってきたら、二番目の人と一緒になって走る。その後、三番目・四番目…と一人ずつ増やしていき最後の一人までいったら今度は最初の人から一人ずつ順番にぬけていく。
8	ベスト16	15分	模造紙 マジックペン 新聞紙	縦横4マスずつ（計16マス）の用紙にゲームリーダーのいうキーワード（花･動物･魚など）に当てはまるモノを16個書く。その後答えをチェックする。○が縦・横・ななめに揃うとボーナス点。
9	赤と青	8分 フリー	表裏を赤と青に塗り分けた厚紙	2チームごとの対戦ゲーム。表裏を赤と青に塗り分けた厚紙を20～30枚程度、赤と青が同数になるようにして重ならないように広げる。スタートとともに、自分のチームの色に替えていき（ひっくり返す）、より多く自分のチームの色にしたチームの勝ち。厚紙をひっくり返す時、「重ねない」「投げない」「持っていかない」「時間がきたらすぐやめる」等のルールを決めておく。
10	得点発表	4分 なし	なし	最終得点の発表をする。
プログラム全体を通しての準備物			笛、得点表（模造紙または黒板）、ポイント（ロードコーンのようなもの）（BGMの音楽が用意できると会場の雰囲気づくりにいい）	

◆得点のつけ方【例】
・順位点【1位：30点　2位：20点　3位：15点　4位：10点】
・ベスト16【○1個あたり：5点　1列揃ったボーナス：10点】
・赤と青【紙1枚：3点　または　勝ったチーム20点、負けたチーム10点　など】
参加者全員の規律を保つため、順番待ちの者の応援や整列の様子を見て、よく出来ているチームへボーナス点をあげる等の対応をとるとよい。【ボーナス：5点、3点 など】
また、競争意識を持続させる為、ボーナス点などを使って得点に極端な差が出ないようにしていくことも考える。ただし、ボーナス点の出しすぎには注意が必要。あくまでも主はゲームでの得点であることが大切。

◎中間発表前に「ファッションショー（新聞紙や広告紙で服をつくる）」などのゲームリーダーの主観で順位をつけられるゲームをいれて、各チームの得点に開きが出ないようにある程度調整できるゲームを入れたりしてもよい。

◎指導者（スタッフ）に人数がいれば、ゲームリーダーのほかに大会会長をつけて各チームの様子をみてボーナス点をつけてもらったり、ゲーム説明の手伝いをしてもらうとよい。
大会会長に仮装させたりして特別のキャラクターにすると子ども達が喜びます。

◎ゲームリーダーは、子ども達の元気に負けないようにテンションをあげてゲーム進行をしましょう！

室内オリンピック③
～リサイクル工作を使ったゲーム～

八月二十三日、美郷町浄土寺さまを会所として「教区指導者研修会」が開催されました。佐波組の「第十四回ほとけの子のつどい」を通して行われましたので、佐波組の関係者の方々と少年連盟スタッフが協力し温かい雰囲気の中で進めていくことができました。

私がスタッフとして担当しましたのは、牛乳パックのリサイクル工作を使った室内オリンピックです。一人当たり牛乳パックひとつを使って、「ブンブンごま」「パッチンカエル」「竹とんぼ」の三つの作品を作り、それを使ってチーム対抗のオリンピックゲームを楽しみました。

私は、リサイクル工作を使った遊びについて三つのメリットがあると考えております。まず一つ目は、主な材料は家庭にあるのでコストと買い物の手間がかからないことです。実際の日曜学校においては蓋を開けてみるまで参加人数が分からない状況下、無駄なコストをかけずに済むということは、大変うれしい事です。二つ目は、ゲームに使う作品を自分の手で作り上げるので、作品の形状やその扱い方に工夫が強いられるということです。相手に勝つために作品の形を整え、扱い方を練習するため、創造力や集中力が自然な形で芽生えてくるものと思います。側でサポートしている大人たちもついつい本気になってしまうほど楽しんでしまいます。そこには、オモチャに遊ばされているのではなく、自ら遊んでいる子供のいきいきとした姿を見ることができます。三つ目は、私たちの身のまわりにある資源を、廃棄してしまう前に今一度活用し、別の形の命を吹き込むことによって、限りある資源について「もったいない」という思いを持つことができることです。

今後は、普段皆さんが自坊で行われていることも会活動を、お手伝いしながら拝見できたら面白いかもしれないと感じております。

南無阿弥陀仏

室内オリンピック④
～グループで協力して行うゲーム～

準備物　新聞紙

●新聞紙のりジャンケン
みんなで協力して最後まで新聞紙に乗り続ける。
・グループに一枚ずつ新聞紙を配る。
・全員で新聞紙に乗る。
・代表がジャンケンする。
・負けたグループが新聞紙を半分に折って、その上に乗る。(折り方は縦横自由)
・一人でも乗れなくなったら終わり。(足が新聞紙から出ていなければ、片足立ち、つま先立ちもOK)
※おんぶしたり、だっこしたりなど、子供たちがどのように工夫していくか。

●新聞ちぎりレース
新聞紙一枚をいかに長くちぎれるか競争
・グループに一枚ずつ新聞紙を配る。
・一人十秒のリレー方式で新聞を手でちぎっていく。(時間は人数などにより変更)
・一番長くちぎれたグループが勝ち。(切れずにちぎれたものとする)
※どんな風にちぎるか話し合う。
・途中で切れたら、そこからスタート。
・時間の合図を入れる。
・どちらのゲームも、人数・子供の年齢によってルールを変更していくと、より楽しくなる。
・ゲーム中の〝声がけ〟も工夫していくと盛り上がっていく。

常見寺日校へようこそ

大田東組　常見寺
住職　大草顕信

毎月第二日曜日の朝は、子ども達の賑やかな声と、バタバタバターッと庫裡まで駆けて来る元気のよい足音で、一日がスタートします。お勤め、ご法話の後は、ゲームをしたり、外で元気に遊んだりし、おきまりのティータイムでは子ども達と学校の話などをしながらおやつをいただいて楽しいひと時を過ごしています。

野外活動として、六月には少し離れた美郷町のご縁の方の畑でお世話になり、さつま芋の苗植え、十月にはその収穫をさせてもらっています。門推、女性会、仏青の方々の協力を得て、保護者の方も子どもと一緒に土に触れる経験や作物がどうして大きくなるのかなど体験活動として行っております。

又、七月には、毎年恒例のサマースクールを開催します。その中では、追跡ハイキング、クラフト、かき氷大会、そして夕べの集いでは、映画や花火、キャンドルサービス等々、朝から晩まで子どもと共に汗をかきながらの一日です。

十一月の子ども報恩講では、親子で聴聞したり、おときについてもらったりしています。その他、誕生会、おやつ作り等行なっています。

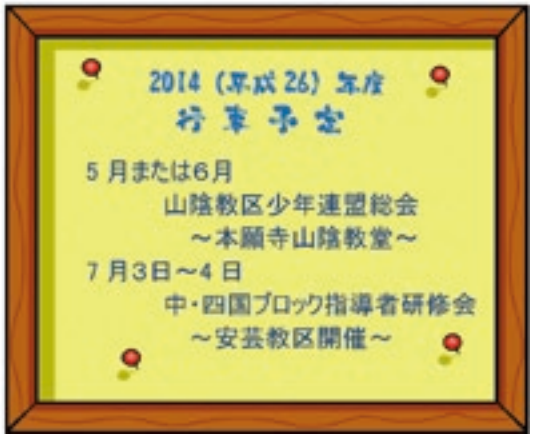
◇◆◇　◇◆◇　◇◆◇

学校とはまた一味違う環境の中で、仏様の話を聞いたり、本堂で手を合わすことの大切さを感じてもらう中、あらゆるいのちのつながりによって生かされていることを感じ、他のいのちの痛みに気付ける思いやりのある子になってもらえればいいなぁーといつも念じております。

又、子どもたちが〝今〟この時にしか感じられない経験を沢山得て欲しいと願いつつの活動を行っております。

私自身も、この日曜学校が仏法をいただく場である事を忘れてはならないと感じます。

これからも、子ども達と共に、一歩一歩み教えに出遇ってゆきたいと思います。



新単位会紹介

浜田組
清岸寺崇徳日曜学校

清岸寺崇徳日曜学校は、長年活動をしてきていますが、この度少年連盟に登録し、気持ちを新たに活動していきたいと考えます。

この十年でずいぶん子どもが減り、クラブ活動等もあって毎回参加できない子もいます。しかし、人数に関係なく、仏様の話（願い）を聞き、楽しめる活動ができればと思います。キッズサンガの取り組みがされていますが、日校で仏様の話を聞いたり手を合わせることが身につくことで、家の中であるいは将来仏事に出遇った時でも、自然と合掌できる人になるのではないでしょうか。当日校では、年間の活動の中でゲームをしたり正月にはかるた大会やくじびきを行っています。また近隣寺院と一緒にサマースクールを行います。そこではお寺に来たことがない子どもも来ます。

現代社会では、核家族が多くなり人とのつながりが薄れてきていると言われます。今後も、ホッとできる場づくり、また、やさしく強い心を育てる活動を、連盟の皆さんと共に取りくんでいきたいと存じます。よろしくお願いします。

編集後記

「室内オリンピック」と聞けば、本堂の中で運動会？どんなスポーツを競うのだろう？どんな大がかりな仕掛けがあるのだろうか？と想像しますが、実はホイッスル一つ使って、単純な作業を「競う遊び」に置き換えたり、身近なものを使っての「遊び対戦」なのです。参加者がグループ対戦又は個人戦等々、決められたルールに従って競い合うのです。今年度の指導者研修会では大変な盛り上がりでした。最新鋭のデジタルゲームなどを手にする最近の子どもたちには珍しかったかもしれません。ちゃんと仕切る人がいることも、ボタンやスイッチの操作で勝敗が決まる機械のゲームでは味わえない経験だったことでしょう。野外運動会とも違い、本堂という限られた空間でみんなが代わる代わる主役になり、肩を寄せ合って応援し仲間と共によろこび、悔しがり悲喜こもごも、きっと楽しい思い出に……。将来「お寺で手を合わせて、大きな声出して遊ばせてもらったなぁ～」という記憶が絆となり、きっと迷わずお念仏申すことができる人になるのではないでしょうか。

デジタルにはない、人と人が触れ合う遊びの復活！　今後のお寺に期待が集まるかも!?

（衣笠　千秋）